

令和7年度第2回 総合教育会議【資料1-1】

社会や民間など さまざまなリソースを活用した豊かな学び

企画部企画課 未来共創政策推進室

入間市教育大綱策定の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年度				第1回					第2回			第3回 トピック①
令和7年度				第1回 トピック②					第2回 トピック③			第3回 教育大綱案
令和8年度				第1回					第2回 教育大綱説明			第3回

今回の会議では、教育大綱策定に向けたトピックとして、「**社会や民間など、さまざまなリソースを活用した豊かな学び**」について取り上げることとし、**他自治体の事例や国の動きを紹介**させていただきます。

事例紹介① 愛知県名古屋市

「探究学習プログラム」と「地域クラブ活動プログラム」の提供
(学校内外における個に応じた学びの支援)

取組の概要

- 「**探究学習プログラム**」では、児童生徒が自ら課題を見つけ・調べ・考え・表現できるような場を提供します。
- 「**地域クラブ活動プログラム**」では、地域の団体や指導者が主体となってスポーツや文化活動を提供します。

ポイント

民間事業者の専門知識や豊かな経験を活用しながら企画・設計を行うことで、プログラム会場選定から授業運営まで、**個々の児童生徒に応じた学びの環境を実現**していく。

事例紹介① 愛知県名古屋市

取組の背景

- 名古屋市の教育における**基本的な方向のひとつとして**…
「子どもが自律して学び続け、持続可能な社会の創り手となるよう、子ども中心の学びを推進する」
⇒その施策として、キャリア教育やグローバル人材育成の推進等がある。
- 推進における**現状把握や課題感のひとつとして**…
子どもが郷土への愛着や誇りを持つとともに、多種多様な人々と協働・共生していくための必要な力を伸ばしていく必要がある。また、日本の文化芸術や歴史に理解を深めることや、異文化にふれる機会を充実させる必要があるともしている。

ポイント

伝統や文化、郷土への愛着や誇りを持つ(理解する)ことで、異文化や多種多様な人々への理解や共生につながるものとしている。⇒自分の土台や軸となるものを理解することを基礎としている。また、その過程から、自分が興味のあることや学びたいことを浮かび上がらせ、**学びの追求・深掘り(自律的な学び)**につなげている。

事例紹介①-1 愛知県名古屋市 × SPACE × コーディネート協力:大ナゴヤツアーズ

探究学習プログラム なごやULTRAプログラム (2024年度実施)



じぶん

きほん

しぜん

くらし

あきない

応用

基本「じぶん」のプログラムと、応用のプログラム（3種）を用意。応用は、それぞれの分野のプロから話を聞いたり創作活動をしたりして、自分の個性や特性に応じて興味を深めながら自分らしく学ぶ。

得られた効果

キャリア教育の推進を図るため、学校外における個に応じた学びの支援として、多様な個性や才能等のあるそれぞれの子どもたちが、興味関心のあるテーマを探究する活動を通じ、自分らしさや自分らしい学び方を発見できる。

事例紹介①-1 愛知県名古屋市 × SPACE × コーディネート協力:大ナゴヤツアーズ

イシ（意思や石等）をキーワードに、名古屋の自然や歴史、商業を学ぶ

じぶん

- ・ワークショップを通じて、過去から現在までの思い出を振り返る。
⇒過去から現在に至るまでの自分の軸を見つけ出す。
- ・自分の軸を基にして、やってみたいこと、なりたいものを思い描く。

しぜん

- 植物や生き物といった自然環境に興味がある人向き
- ・ 河原にある石から、日本列島の成り立ちや名古屋の地勢について学ぶ。
- ・ トルコ料理を通じて、トルコと日本の共通点と料理文化の違いを学ぶ。

くらし

- 歴史や文化、ものづくりに興味がある人向き
- ・ 熱田神宮を参拝し、祭られている「三種の神器」から、形を変えて人類の歴史に紐づいている石を学ぶ。
- ・ 力士とちゃんこから相撲が根付いた地元を学ぶ。

あき ない

- 商売や経済に興味があり、アイデアを形にしてみたい人向き
- ・ 石の端材で加工品を作っている人から、愛知の石工文化や、その伝統を引き継ぐ思いを学ぶ。
- ・ ご当地グルメ（なごやめし）や喫茶文化から、食文化の歴史を学ぶ。

事例紹介①-2 愛知県名古屋市 × 大日本印刷株式会社

「地域クラブ活動プログラム」・「探究学習プログラム」（2025年11月プレス）

大日本印刷(株)は、(株)ムラサキスポーツなど10社と協業し、名古屋市の「探究プログラム実施業務」に参画しています。10社が持つスポーツ・音楽・エンターテインメント等の専門性と、大日本印刷の教育向けコンテンツの企画・構築力が掛け合わさり、児童・生徒向けの「地域クラブ活動プログラム」と「探究学習プログラム」として12月から提供されている。



ムラサキスポーツ



株式会社うちゅう

事業に期待する効果

学校のカリキュラムにはない専門的な学びを提供し、児童・生徒が、興味・関心のあるスポーツの種目や学びのテーマを体験・探究することで、新たな可能性を伸ばすことができる。

国の取り組み アントレプレナーシップ推進大使の派遣



**アントレプレナーシップ
推進大使派遣**

あなたの学校に、
教育・ビジネス現場で活躍する方々を派遣します！

**実施校数
先着
500校
(予定)**

申し込みはコチラ

申込受付期間
第1期：2025年5月12日～2025年8月31日（予定）
第2期：2025年9月1日～2026年2月12日（予定）
※受付状況によっては、申込期間中であっても申し込みを終了する場合があります

対象：「アントレプレナーシップ推進大使」による講演・授業の実施を希望する全国の小・中学校、高等学校等 ※1

※1 「小・中学校、高等学校等」とは、学校教育法第一条に定める、
小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校をいう。

アントレプレナーシップ教育は、自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かって**チャレンジ**したり、**他者との協働により解決策を探究したり**することができる**知識・能力・態度**を身に付ける教育であり、起業家を育成するためだけのビジネス教育とは異なります。

（文部科学省：全国アントレプレナーシップ人材教育プログラムHPより引用）

国の取り組みの背景

広く身に付けるべき基礎的な能力(各学習指導要領に基づく学習等)

学習の土台

アントレプレナーシップの 醸成



動機付け

- ・自分の興味・関心への気づき
- ・社会課題への気づき



コンピテンシー

- ・アイデアを生み出す創造力
- ・仲間と力を合わせる協働力
- ・アイデアを実現する行動力
- ・リスクに立ち向かう精神力
など

アントレプレナーシップの 発揮



社会実践

- ・実際に事業を進めていくにあたって必要な専門知識、実践の機会

多様な価値を認め“**Well-being**”を達成するためのより良い社会の実現

- ・社会経済における新たな価値の創出
- ・社会の変化に対しても自分らしい生き方を構築

アントレプレナー推進大使の派遣事例



長内 あや愛 氏

テーマ：自分の好きなこと、やってみたいことを見つけよう！

内容：起業家等の話を聞いて、「好きなこと」や「やってみたいこと」を見つけ、挑戦することの楽しさを知ろう！

(自己理解や社会への関心を持つことの重要性)

動画URL：<https://youtu.be/APa6HBB0wkM> (私立湘南白百合学園小学校)



藤本 あゆみ 氏

テーマ：身のまわりの「困った」をチャンスに変える！

内容：起業家等の体験談を通じて、身のまわりの生活や住んでいるところの課題を見つけ、アイデアを考えてみよう！

(課題発見や行動することの重要性)

動画URL：<https://youtu.be/Fk7jdYVWPwA> (練馬区立大泉西中学校)

ポイント

社会とつながる学びが、子供の未来を広げることにつながる。

⇒教育・ビジネス現場で活躍する人々の接するといった“チャレンジ”を経て、自分に合う、自分らしい生き方を考える機会を届けることが可能。

事例からよみとれる視点

視点① 個々の児童・生徒に応じた学びの環境と地域資源の活用

→ 自分らしさや自分らしい学び方の発見

視点② さまざまな民間企業との共創

→ より多様で質の高い学びの機会の提供

視点③ 答えのない課題にチャレンジし、自分なりの答えを導き出す

→ 生き抜く力を育む

視点④ 自分(や地域、日本の歴史や文化・伝統)を知ることが基礎として、実践活動している。

→ 自己(歴史や文化・伝統含む)を知ることにより、
多様性を尊重する力を育む

様々なリソースを活用した
豊かな学び



◆ 非認知能力の育成を推進
◆ 多様性・利他的思考の構築

次回の総合教育会議と入間市教育大綱策定の年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年度				第1回					第2回			第3回 トピック①
令和7年度				第1回 トピック②					第2回 トピック③			第3回 教育大綱案
令和8年度				第1回					第2回 教育大綱説明			第3回

トピック①
グローバル教育・
キャリア教育

視点
「地域主体」
「こども主体」

トピック②
教育DX

視点
「主体的な学び」
「個別最適な学習」

トピック③
さまざまなリソースを
活用した豊かな学び

視点
「非認知能力」
「多様性・利他的思考」

教育大綱
(案)

令和7年度第2回 総合教育会議【資料1-2】

社会や民間など さまざまなリソースを活用した 豊かな学び



学校教育課

令和7年12月25日(木)

背景と理念

- ▶ **社会変化（AI・グローバル化・地域課題）に対応する教育の必要性**
- ▶ **学習指導要領改訂の基本理念：
「社会に開かれた教育課程」**

背景と理念

▶ 「社会に開かれた教育課程」

○教育課程の基本理念

○学校教育を社会と切り離すのではなく、地域や家庭、民間など多様な人々と連携・協働しながら、子供たちが社会の中で学び、社会の創り手として成長することを目指す考え方

背景と理念

- ▶ 「**社会に開かれた教育課程**」 **ポイント**
- よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有する
- これからの社会を創り出す子供たちに必要な資質・能力を明らかにし、学校教育で育成する
- 地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現する

社会・民間リソース活用の意義

- ▶ 学校だけでは提供できない体験や知識を補完
- ▶ 地域人材・企業・大学・NPOとの連携による豊かな体験活動
- ▶ 世代間交流・地域課題解決型学習の推進

総合的な学習の時間

- 地域の課題解決型学習
（例：環境保護、福祉活動）
- 世代間交流や地域人材を活用した
体験活動
- 地域の人々と協働してプロジェクトを
進める

特別活動

- 地域行事やボランティア活動への参加
- 学校行事に地域住民や保護者を招き、協働的に運営
- 生徒会活動で地域社会との連携を推進

入間市での取組 【宮寺小学校】

3年生 総合的な学習の時間

「おはやし名人になろう」

講師：坊はやし連（あだち流）





坊は平乙護

▶ はじめは上手くできなかつたけれども、
練習を重ねて本番では上手に演奏する
ことができました。

▶ はじめは知らなかつたけれども、宮寺に
こういう文化があることを知ることが
できました。

▶ やり方をていねいに教えてくれたので、
難しくなかつたです。

入間市での取組 【狭山小学校】

5年生 総合的な学習の時間

「地域の食文化を知ろう・地域の知恵に学ぼう」講師：加藤ファーム

発酵したあとの麴の熱を冷ましています



大きな釜で大豆をゆでて、
試食を待つ子供たちです



5年生で
仕込んだ
味噌を
6年生の
卒業間近
に家庭に
持ち帰り
ます

蒸しあがった米を
取り出しています

▶ 味噌作りを初めて体験し、こんなにも手間暇がかかるということ、時間がかかるということを知りました。1年後にできるのがとても楽しみです。ゴトゴトと大きな釜で大豆を煮るところが印象に残りました。

▶ 3年生の学習で大豆から味噌ができることは知っていましたが、米も使うことを初めて知りました。自分たちで、米、大豆を育てて最後に味噌になるまで全て作り、すごいことをしたなど、自分で思いました。

▶先輩方が味噌作りをしているのを知っていましたが、こんなにも多くの方々力を借りていることも初めて知りました。加藤ファームの加藤さん、先生方、保護者のボランティアのみなさんには感謝しています。嬉しかったです。来年の完成が楽しみです。

入間市での取組

【金子小学校】

全学年 学校行事

「避難訓練における 地元消防団との連携」



▶ (父が団員だという姉妹)

初めて見た。家に帰ったら「恰好良かった」って言う！

▶ (父が団員だという女子児童)

消防団に入っているのは知っていたけど、どんなことをやっているのか初めて知った。

▶ (その弟) すごい！ やばい！ 消防団に入りたくなった！

入間市での取組 【武蔵中学校】

2年生 総合的な学習の時間

「認知症サポーター養成講座」

講師：宮寺二本木地域包括支援センター



タイムスケジュール

時間	内容	担当者
11:50～ (5分)	先生あいさつ ・自己紹介	各クラス ① <u>蜂須賀(星)</u>
11:55～ (25分)	・認知症のイメージについて発表(2名) ・認知症の理解 (パワーポイントを使用) ・動画視聴 ・入間市の取り組み ・チームオレンジいるまの紹介	② <u>木坂</u> ③ <u>小谷野</u>
12:20～ (15分)	・認知症かるたクイズ	
12:35～ (5分)	質疑応答・感想発表(2名)	
12:40	あいさつ 終了	

入間市での取組

【藤沢東小学校】

6年生 総合的な学習の時間

「セブン-イレブン×中村屋 特別授業」



- ▶ 「肉まんが入間市の工場から全国に届けられているのは入間市の誇り」
- ▶ セブンイレブンは、これまで利用したことはあったがこれほど接客について考えたことがありませんでした。今回、これほどまで丁寧に対応されていることを知ることができて今後、利用する際にはもっと考えながら利用したいと思いました。

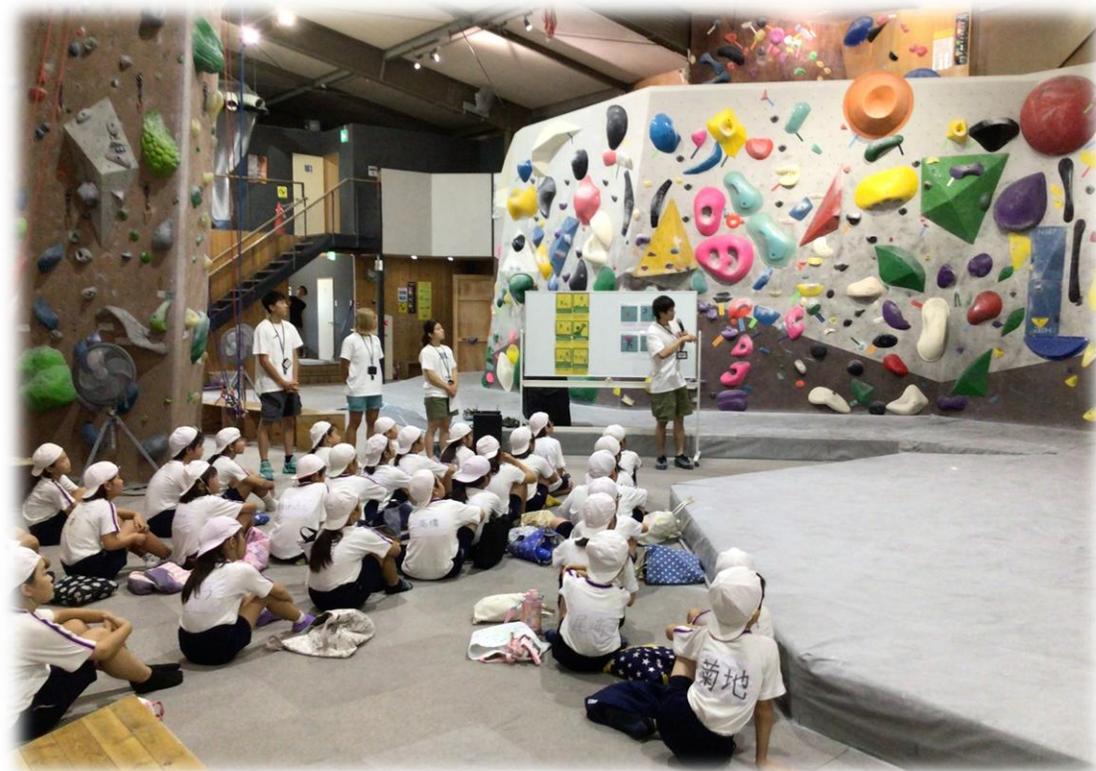
入間市での取組

【藤沢北小学校】

4年生 体育

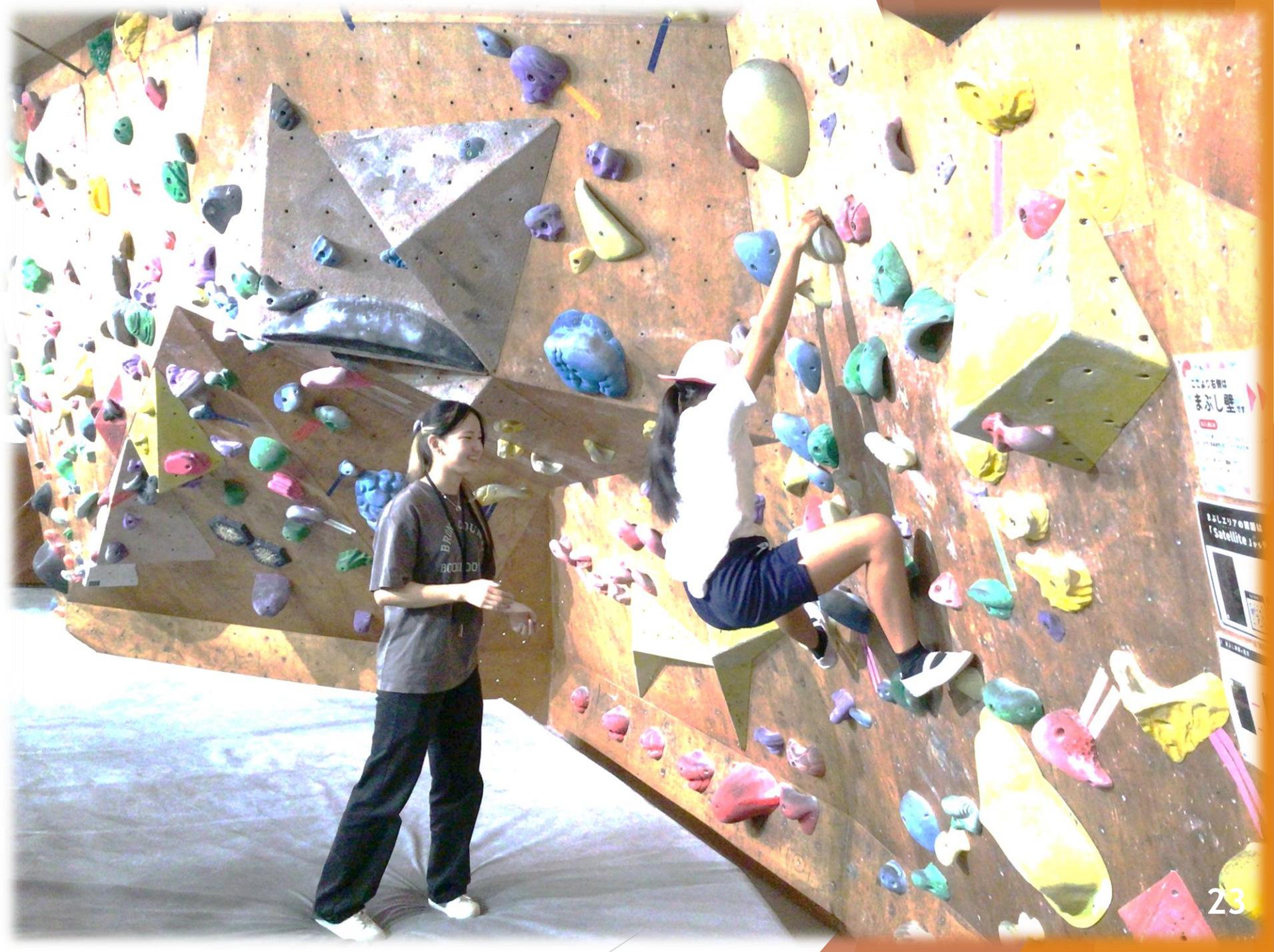
「スポーツクライミング授業」

講師：クライムパーク ベースキャンプ 入間店



○スポーツ
推進課の事業として市の
予算で実施

○今年度から藤沢小学校でも実施



- ▶ こわそうで、やるのがきんんちょうしていたけれど、できるとうれし、達成感があって楽しかった。
- ▶ 先生のお手本を見て、「かんたんなのかな？」と思っていたけど、めちゃくちゃむずかしくてびっくりしました。
- ▶ やってみたら高いところから下りるのも平気になってうれしかったです。

入間市での取組

【新久小学校】

6年生 家庭科

「じゃがいもとソーセージのナポリタン炒めを作る。」 講師：入間ガス





- ▶ 説明がわかりやすく、聞きやすかった。
- ▶ 一つ一つていねいに教えてくれてうれしかった。メニューを応用して家でも作りたい。
- ▶ 環境に配慮した調理、片付け方の勉強になった。すごいと思った。

入間市での取組 **【西武中学校】**

1年生 総合的な学習の時間

「私たちの住む地域を知ろう。
学ぼう。学びを発信しよう。」

谷田の泉を守る会



入間川：アリット学芸員



長徳寺



圓照寺



アミーゴ



元加治駅

- ▶ 3 学期には地域学習があります。地域学習では、たくさんの人に支えてもらっているということを知る機会になると思います。地域の人への感謝を忘れずに生活していきましょう。

(3 学期始業式生徒代表の言葉から)

社会・民間リソース活用の意義

- ▶ 学校だけでは提供できない体験や知識を補完
- ▶ 地域人材・企業・大学・NPOとの連携による豊かな体験活動
- ▶ 世代間交流・地域課題解決型学習の推進

社会・民間リソース活用の意義

- ▶ 本物への憧れ
→ 夢
- ▶ 知らなかったことへの驚き
→ 探究へ
- ▶ 感謝の心
→ 人間性の向上

今後の課題

- ▶ 社会・民間リソースの更なる導入
- ▶ 教育課程づくり→教員の意識改革
- ▶ もっと地域等からの学校へのアプローチ

令和7年度第2回総合教育会議【資料2】

全国ヤングケアラー 支援シンポジウム2025 from入間 ～日本初の条例制定市の『次の一手』～

事業実施概要報告

こども支援部

令和7年12月25日(木)

開催概要

開催日時 令和7年11月26日(水)14:00~16:30

会場 入間市産業文化センターホール

プログラム1 基調講演
こども家庭庁 長官 渡辺由美子氏 / 支援局長 齊藤馨氏

プログラム2 政策発表(市長)
「3階層分類と24メニューによるヤングケアラー支援」

プログラム3 パネルディスカッション
トークテーマ①「入間市の政策発表についての感想」
トークテーマ②「政策実現のための課題、クリアすべき点などについて」
トークテーマ③「政策実現にあたっての、連携の在り方や役割分担について」

※詳細は、別紙チラシおよび冊子のとおり

来場者数

属性	参加人数	備考
行政（市/県職員/議会含む）	76	行政・政治・市職員・国際交流
教育（学校・教育委員会・大学）	18	教育
医療・保健	6	リハビリセンター・狭山保健所
子ども・福祉	22	社協
介護・障害（高齢/障害福祉）	15	
NPO・企業・市民	39	自治会・民生委員含む
その他	3	広報
不明（受付を通過していない）	2	
計	181	

※運営スタッフ等を含めると、全体では200名以上が参加しています。
※報道機関7社の現地取材もありました。

アンケートの実施

シンポジウムの終了後、参加者を対象にアンケートを実施しました。

【調査項目】

- ①所属分野
- ②参加の主な理由(複数回答)
- ③政策発表で特に関心のあったもの(複数回答)
- ④今後どの程度活用したいと感じたか(複数回答)
- ⑤入間市へ希望すること
- ⑥自由記載

参加者181名のうち、84名の方にご協力をいただくことができました。



～アンケートご協力をお願い～

インターネットでの回答はこちらのQRコードから行えます。

本日は、「全国ヤングケアラー支援シンポジウム 2025 from 入間」にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、アンケートへのご協力をお願いいたします。

①あなたの主な所属分野を教えてください。(単一選択)

1. 行政(市/県職員/議会含む)
 2. 教育(学校/教育委員会/大学)
 3. 医療・保健
 4. 子ども・福祉(子ども家庭/社協/地域包括 等)
 5. 介護・障害(高齢/障害福祉)
 6. NPO・企業・市民(市民団体/事業者/保護者/学生 含む)
 7. その他()
- ※差し支えなければ所属の名称とお名前を教えてください。()

②参加された主な理由について教えてください。(複数選択可)

1. テーマ(ヤングケアラー支援・日本初の条例制定市の次の一手)に関心があった
2. 登壇者に関心があった
3. 具体的な課題解決のヒントを得るため
4. ネットワーキング(人脈づくり)のため
5. 最新の動向・事例を知るため
6. 所属組織からの推奨・依頼があった
7. 広報を見て(Web サイト/メール/SNS/チラシ/メディア)
8. その他()

③政策発表の内容で、特に関心のあったものはどれですか。(複数回答可)

1. 「3 階層分類」による包括的な支援
2. 潜在的なヤングケアラーを「完全把握」
3. 未支援ヤングケアラーに対する「24 メニューの提供」
4. whole(ホール)レスパイト
5. その他()

④政策発表の内容は、あなたの業務・活動等にどの程度“活用したい”と感じましたか。

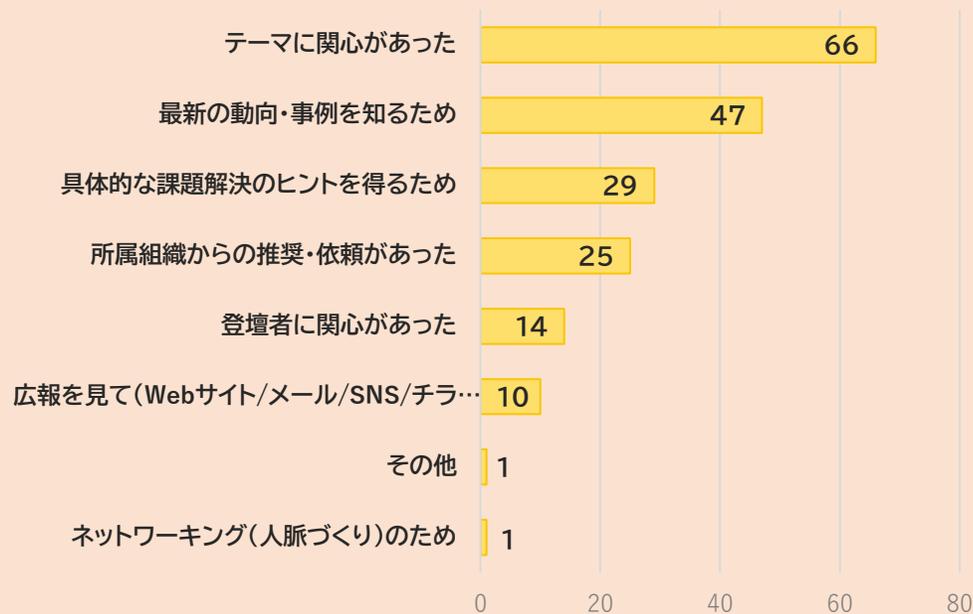
1. ぜひ活用したい
2. 機会があれば活用したい
3. どちらとも言えない
4. 活用することは難しい
5. 活用できない

そうお答えになった理由を教えてください。

⑤本シンポジウムが皆様のヤングケアラー支援の『次の一手』となるために、入間市へ希望することはありますか。
(例:各種テンプレートの提供、出前講座(ヤングケアラー・コーディネーターとの懇談)、行政視察等)

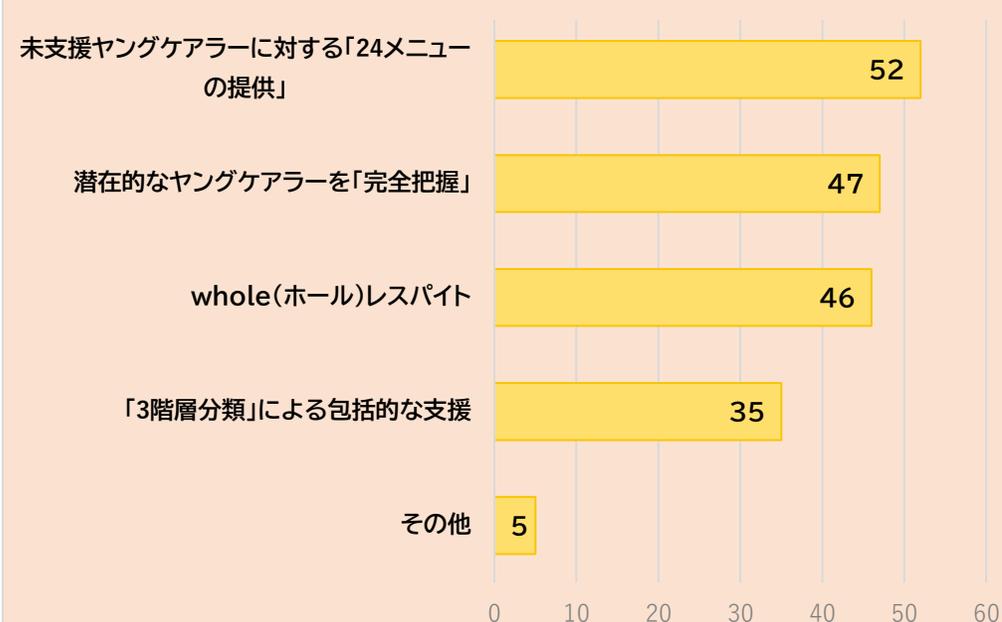
アンケート集計

参加された主な理由について教えてください。



回答率の高かったものから順に、「テーマに関心があった」「最新の動向・事例を知るため」「具体的な課題解決のヒントを得るため」という集計となっています。ヤングケアラー支援のフロントランナーである本市に対して、他の自治体や支援者が何を期待しているのかが、よく分かる結果となりました。

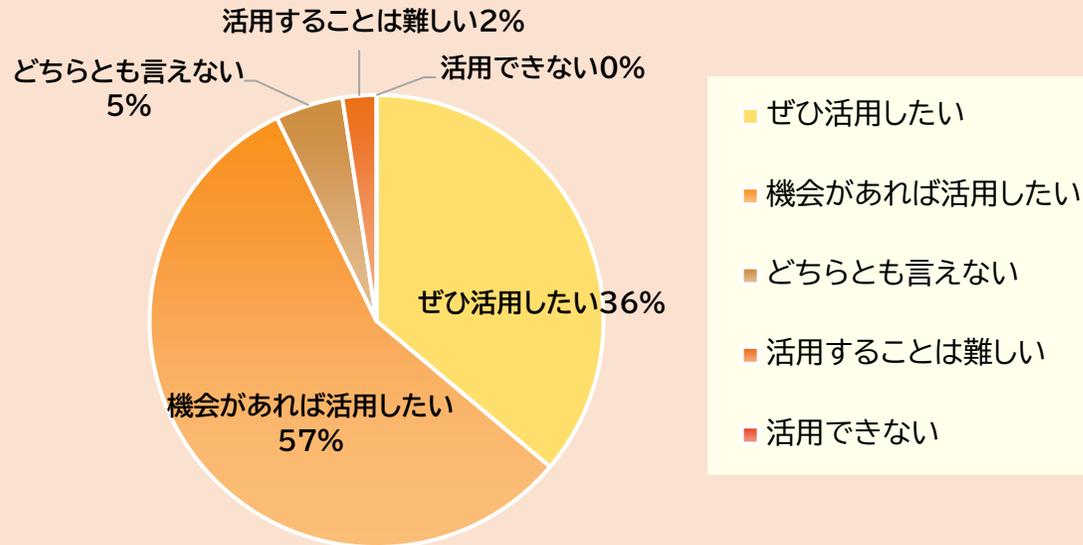
政策発表の内容で、特に関心のあったものはどれですか。



最も多く選ばれたものが「24メニューの提供」、次いで「完全把握」「ホールレスパイト」の順となりました。これら3つの政策発表を選択した方は、いずれも約6割にのぼりました。これは、参加者の多くが、本市が発表した複数の政策に広く関心をお持ちいただけたものであり、バランスの良い政策発表ができたものと分析できます。「具体的な支援をたくても、決まった制度がなく踏み込めずにいた。チャレンジ精神に感服」という声もいただきました。また、ホールレスパイトは、特に教育、医療、保健、介護、障害福祉の専門機関の方から高い関心がありました。元当事者の南光さんから度々発言のなかで取り上げられ、当事者の方やより現場に深くかかわる方から関心をいただけた結果となりました。

アンケート集計

政策発表の内容は、あなたの業務・活動にどの程度
"活用したい"と感じましたか。



「ぜひ活用したい」と考える理由の一部抜粋

- 教育現場で、家庭内のことで悩んでいる生徒の話聞くことがある。その生徒の救いになることをしていきたい。
- ヤングケアラーかどうかというより、どれだけそれに近いか、困っている度合いに応じて助ける内容も変わってくると思います。そういう発想力は、ほかにも応用できると感じました。
- 潜在的なヤングケアラーの課題解決に対して、民間でできることを行いたい。

「ぜひ活用したい」と「機会があれば活用したい」を合わせて、93%もの方から、政策発表の内容を「活用したい」という回答を得ることができました。特に、気づきや、仲間への周知など、日々の業務や活動のなかで活用できると答えてくださる方が多く、本市の政策発表の内容を、参加者自身の身近な課題に置き換えて考えていただくことができたようです。

一方で、「活用することは難しい」と答えた方のなかには、かなり専門的な内容だったため、日々の活動では活かせない、という趣旨の答えもありました。ヤングケアラー支援は、行政や専門機関だけではなく、地域や保護者の方々と伴走することが必要であり、今後、皆さんに協力を求める際には、こうした意見も非常に重要であるものと考えます。

アンケート自由意見等

本シンポジウムが皆様の支援の『次の一手』となるために、入間市へ希望することはあるか

- 国が絡んでフロントランナーとして並走してもらいたい。そのためには、市は国(こども家庭庁)を巻き込む、国からの出向、派遣を要請してもらおうとよいと思う。少しでも早く確立して全国展開するためにも国の介入を現状から求めるのがよいと思う。
- 教員が実態把握をするための統一された手段(教員まかせにならない方法)が欲しいと思います。面談で得なければならない(得た方がよい)情報リストの作成など。
- 身近にヤングケアラーがいるかどうかを知ることが大事。それらしい対象者がいたら、見守りから始め本人からヤングケアラーだと言われなくても助けていくことが必要だと思いました。学校の場合、教師は気づいたらそれを次の機関に繋ぐ。今、教師の負担は減らす方向。しかし、気づくことでは一番わかるのが教師なので、気づいた後に引き受ける形が必要。

自由意見

- 具体的なケアがもっと国で仕組化してほしいと思います。入間などからの具体的な課題が予算化されるようになるべきです。
- ヤングケアラーの発見、支援のための先進的で柔軟な施策の模索をしていることが伝わり、とてもよい機会でした。広報の重要性と知らないことが重大な問題であることも同時に認識しました。
- 個人情報保護法69条2項2号を活用してリスト作成というのは、目からうろこでした。当市含め、実態調査アンケートは学校、保護者、その他調整が必要な部署が多く難行する一方で、既に市が保有している情報の組み合わせでリスト作成が「できる」というのは、自治体職員として魅力的に感じます。こども家庭庁の通知などで、「本リスト作成のための障がい福祉情報、介護情報と住基の突合に用いる個人情報は、69条2項2号の解釈として当てはまる」と言ったものを出してもらえれば、実態調査(リスト作成)ができる自治体が大幅に増えるのではないかと思います。
- (支援情報や、生き方を)知らないから、選べない、いきいきしている家族と自分たちとの差は何かという視点。これは、どんな社会課題にも通じる考えだと感じた。

シンポジウム後の動向

- 当日参加できなかった方、自治体などから、「参加した方からたいへん有意義なシンポジウムであったと聞いた。当日資料だけでもいただくことはできないか」といった問い合わせが、数件寄せられています。
- 当日参加した民生委員さんから、とても良い内容であったため、他市の人など多くの人に広めたいため、冊子の内容をデータでいただけないかとの問い合わせがありました。
- 翌朝、NHKさいたま放送局の方から問い合わせがあり、記事になりました。
また、当日はNHKラジオの方からヤングケアラー・コーディネーターが質問を受け対応しています。
- こども家庭庁から「ヤングケアラー支援の先進地」として紹介され、研修としてヤングケアラー支援を検討している民間企業のPTからヒアリングを受けました。
- 自治医科大学を中心としたケアラーデータの収集・解析などに取り組むプロジェクトチームを、こども家庭庁からご紹介いただき、近く、オンライン意見交換を実施する予定です。

